



# パラオ通信

No. 11 5/17/2019

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

今回は私が活動しているコロール島の近況を報告します。パラオは5月から10月までは雨季で11月から4月までは乾季です。でもその年によって多少違います。今年は4月末から最近まで天気が不安定でした。昼はいつも強い日差しで晴天の日が多いのですが、急に激しい雨が降る日もありました。夜は雨が降りっぱなしというときもありました。道路や車がきれいになります。赤道近くの島国の特徴といえます。



## ハイビスカスの枝とヤシの実



パラオ高校の前の道路わきではハイビスカスの花がいつも咲いています。赤や白、ピンクやオレンジなどの花でいっぱいです。この時期は雨で枝がどんどん伸びるので、作業員の人が写真のようにエンジン付きのカッターでバリバリと刈り込んでいます。美しい花も切り捨てられてもったいない気がしますが、こちらの人にはそうでもないようです。新しい花が次つぎと咲くからでしょうか。

私が借りている住宅の管理人（女性）も庭のハイビスカスの枝を切っていました。そして「これでOK」といって、気に入った花の枝を地面に刺していました。それで根が生えてくるのだそうです。地面を耕すことや、肥料や水やりもしないそうです。

夜は雨だけでなく風も強いので、ときどきヤシの実が高い所から落ちてきます。朝になると私の車の周りにも2, 3個落ちていることがあります。私がマレーシアの学校で働いていたとき、同僚の車のフロントガラスにヤシの実が落ちて割れたことがありました。それ以来、なるべくヤシの木から離れたところに車を止めるようにしています。いま私が借りている家では、管理人の女性がヤシの実を拾い集めては空き地へ捨てに行きます。

JICA 事務所の近くにある「エルゲール公園」では、ヤシの実を房ごと切り落としていました。見ていると手間のかかる作業でした。頭の上に落ちたら危険だからです。ココナッツジュースを飲むため、もらって行く人もいました。

また公園では小学生が草野球をしていました。こちらでは野球やソフトボールを子供だけでなく大人もします。

子ども遊びでは硬式テニスのボールを使い、バットは竹の棒、ベースはスリッパ、ファーストとセカンドだけの三角ベースです。日本の「昭和のかおり」がします。



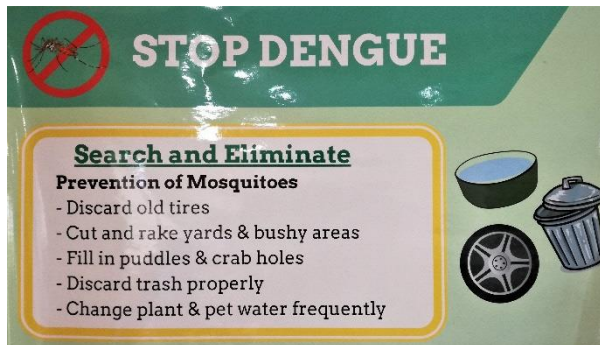


その「エルグール公園」にある大きな木には、写真のようなきれいな花が一面に咲いています。地元の人はその木をマンギーパンと呼ぶそうです。

パラオ通信7で紹介したナイトマーケットの会場を「ベツラハム公園」と紹介しましたが、「エルグール公園」と正式名が変更されました。イギリス名からパラオ語名になったのだそうです。でも「ベツラハム公園」と呼ぶ人も多いです。

### パラオ高校 デング熱(デンギー)

雨が続くと水たまりができます。水たまりがあると蚊が発生します。そしてデング熱という病気が広がります。私の職場や住宅の周辺では水たまりを見かけませんが、ちょっと奥地へ行くと蚊がいます。授業支援に行っているパラオ高校では、どの教室にもデング熱を警告するポスターが貼ってあります。雨が降った後はスタッフがゴミの見回りをしています。水たまりの点検もしています。そのこともあって、学校の庭はいつもきれいです。



事務室でスタッフの人に聞くと、デング熱(デンギー)で学校を休んでいる学生が数人いるそうです。(学生は全部で約400人)こちらの蚊は小さいし、動きが速いので手で叩けない。かゆいと思ったら、たいていは2~3カ所刺されていると言っていました。

教育省のスタッフ(女性)も、4月にデング熱で休んでいました。職場復帰したときに、「熱が38度もあって大変だった」と騒いでいました。もう一人のスタッフ(女性)は小学生の子どもがデング熱にかかった時のことを興奮して話してくれました。「子どもに高熱が出たので急いで病院に連れて行った。医者からデング熱といわれた。特別な薬はないので、それから3日間は寝かせて、食べさせて、水シャワーをかけての連続だった」日本のインフルエンザほど広範囲に広がることや学校閉鎖もないけれど、パラオの人にとっては一大事のようにです。

私たちにはパラオの保健省からの警告メールが定期的に届きます。5月6日から12日までのデング熱の新患者は5人で、昨年(2019年)の12月1日からの累計では179人だそうです。パラオ人の人口は約12,500人なので、罹った人はこの半年で100人中1.5人の割合になります。



## パラオ高校 給食

パラオ高校の学生たちはカフェテリアで昼食をとります。家に帰って食べる学生もいます。これは昨日のパラオ高校のランチです。メニューはカレーとごはん、パイナップルのシロップ漬け（缶詰）、それと水です。写真にはありませんが、今日はこれにバナナが1本追加されていました。食材の予算はひとり1ドルで、お米は台湾からの援助だそうです。



パラオは台湾からも人材や資金の援助を受けています。



これだけでは足りない学生は、近くのコンビニでスナック菓子やアイスクリームを買って食べます。放課後の部活はなくて、大半の学生は3時半ごろにスクールバスや保護者の車で帰るのでこれで十分なようです。

公立の小学校とパラオ高校のランチメニューは、教育省の栄養士から各学校の調理スタッフに指示されます。でも地方の小学校では、アイスクリームやカップケーキがときどき追加されます。だから小学生はランチが大好きです。私が離島の小学校を視察に訪れたときは、バケツのような容器からアイスクリームをいっぱいすくって子どもたちに渡していました。びっくりしました。

## パラオ高校や小学校の夏休み

パラオには中学校がなくて、エレメンタリー・スクールとハイ・スクールの二段階の学校制度になっています。エレメンタリー・スクールは1年から8年まで、ハイ・スクールは1年から4年まであります。新しい学期は8月上旬に始まって5月下旬に終わります。

パラオ高校は今週が期末試験で、来週の5月23日が卒業式。そのあと2か月半の夏休みになります。2か月半の夏休み、日本ではあり得ないです。小学校やコミュニティ・カレッジもだいたい同じです。

夏休み中、小学生や高校生は何をするの？宿題は出るの？先生たちは何しているの？みなさんから聞かれてもわかりません。わかりしだい、このパラオ通信で報告します。

